

他人のため、世界のために自分の力を使えるか

所属	愛知県田原市立赤羽根中学校	実践者	鈴木 康弘 (L)
対象	中学校3年生	時間数	12時間
場所	教室、コンピュータ室	実践教科	社会科
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・国際問題を自分事としてとらえ、支援や国際協力に賛同したり、参加したりしようすることができる。 ・国際問題が存在することや、その解決に向けての支援・国際協力の現状を理解することができる。 ・国際問題の解決のために何ができるかについて、さまざまな視点から考えることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～3	<p style="text-align: right;">○活動 ★資料、情報先 ◆手法</p> <p>『ウェイトピッカー(WP)と出会う』 ○WPの少女マニカに関する動画を見て、感想を共有する。 ★ラオスの少女の写真 ★フジテレビ系列「土曜プレミアム」(2005年) ○WPについて、インターネットを使って国や人数、収入などの基本的な情報を調べ、情報を共有する。 ★インターネット ◆ブレインストーミング法</p>	
	4～7	<p>『WPについて考える』 ○WPについて詳しく知りたいことを整理整頓する。 ◆KJ法(カード式整理法) ○WPについて、インターネットを使ったり、聞き取り調査をしたりして調べ、情報を共有する。 ★JICAホームページ、なごや地球ひろば ◆ブレインストーミング法 ○WPが「社会の役割として位置づけられること」について、どう思うかを話し合う。</p>	
	8～10	<p>『支援・国際協力の現場や人と出会う』 ○NGOや青年海外協力隊などの支援の動画を見て、それらの活動のよさを考え、共有する。 ★教師海外研修(ラオス)で撮影した青年海外協力隊の方のビデオメッセージ ★NHK for school ★国連MFP忍足兼勝さん(NHK「プロフェッショナル」) ○興味のある国際協力について調べ、B4の用紙にまとめる。 ◆ブレインストーミング法 ★インターネット</p>	
	11～12	<p>『自分には何ができるか考える』 ○「自分たちにできること」を考え、共有し、グループごとにまとめる。 ◆ランキング</p>	
成果	<p>友だちから学ぼうという意欲を育むことができた。また、「WPの少女」や多くの国際協力、支援者の実際の言葉や生き方を紹介したことで、国際問題を自分に関係あることとしてとらえさせることができた。他人のことを助けたりする仕事やそれに携わる人の素晴らしさを感じさせることができた。</p>		
課題	<p>グループ活動では、生徒が考え、その考えを共有する時間を十分に設けることができなかった。生徒の様子をよくとらえ、余裕をもった計画をしたい。また、国際協力を身近に感じさせたり、深く調べさせたりするためには、支援している方や機関との連携が不可欠であると感じた。</p>		
備考			

4-7 時限目「WPについて考える」

1 子どもの活動の流れ

- ① 『WPについて知りたいことを整理整頓する』
グループに分かれ、KJ法(カード式整理法)を利用して、WPについて知りたいことや疑問を分類する。
- ② 『WPについて詳しく調べる』
グループに分かれ、KJ法の成果物をもとに、何を調べるかを分担する。また、それぞれの時間の最後には、第3時で作成したブレインストーミングの成果物に情報を付け足していく。その後、インターネットを利用したり、なごや地球ひろばの方に聞き取り調査をしたりする。
- ③ 『WPについて考える』
「社会の役割として位置づけられること」について、どう思うかをクラスで話し合う。

この時限のねらい

- ・全員が参加しながら、疑問を整理整頓することができる。
- ・1～3時とつながりのある調べ活動をすることができる。
- ・WPを取り巻く課題について、深く考えることができる。

2 子どもの活動の成果・反応

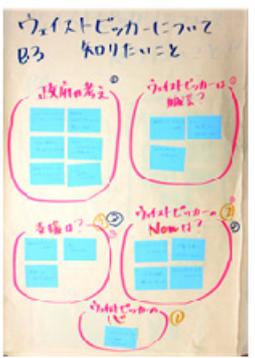
【この場合のKJ法の手順】

- 1 WPについて知りたいことや疑問を、1つの付箋に1つ書く。
- 2 付箋を横並びに貼っていく。ただし、似た物を近くに。(4人程度のグループ)
- 3 まとまりごとに付箋ルをつける。

【活動の様子】



【あるグループの成果物】



【何を調べるかを分担】



【調べる内容の確認】



【ブレストを使って共有】



【ブレストを見てふりかえり】



< KJ法(カード式整理法)で整理 >

< 成果物を活用する生徒たち >

- ◇ KJ法では、全員が楽しく参加することができた。また、情報が不十分だということ再確認し、さらに今後の調べ活動に対する意欲が高まった。
- ◇ 調べが苦手な生徒が、自分から進んで成果物を見返したり、仲間と相談して意欲的に調べ活動をしたりする姿が見られた。また、実際にフィリピンで活動された方の話を聞くことで、国際協力への関心が高まった。
- ◇ グループ活動の中で出てきた「いろんな技能」、「一人の人間」という言葉を、自分の考えとして積極的に取り入れている生徒がいた。このように、仲間とのかかわりの中から自然に学ぶことができた。
- ◇ ある生徒の感想には、「1人の人間」という言葉が繰り返し使われていた。同じ人間として、支援をしていくべきという意識が高まった。

3 使用した教材

<教材3> JICAホームページ <http://www.jica.go.jp/> (「ウエイストピッカー」で検索)

8-10 時限目「支援・国際協力の現場や人と出会う」

1 子どもの活動の流れ

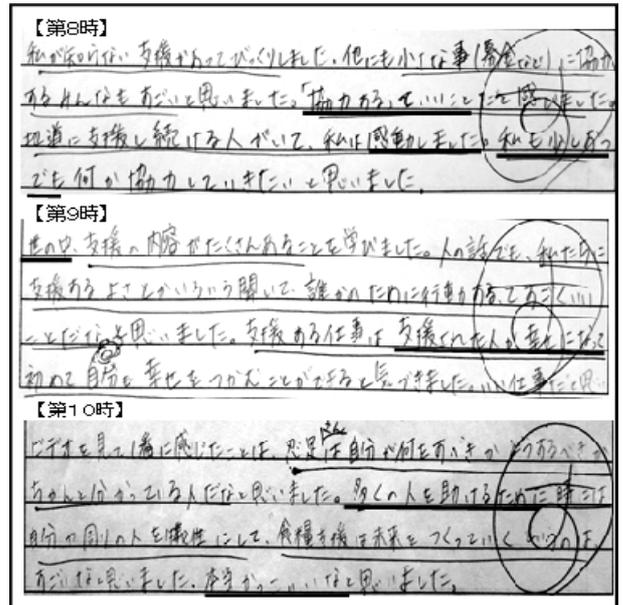
- ① 『支援や国際協力の現場を知る、そして、人と出会う』
NGO や青年海外協力隊など、世界の多くの具体的な国際協力の動画(教材4~6)を見る。それらの活動のよさを考え、共有する。
- ② 『支援や国際協力をより深く知る』
グループごとに、「支援・国際協力」についてのブレインストーミングを行う。その中から、自分が詳しく調べたいことベスト1~3を決めて、共有する。そして、興味のある国際協力についてインターネットを使って調べ、B4の用紙にまとめる。

この時限のねらい

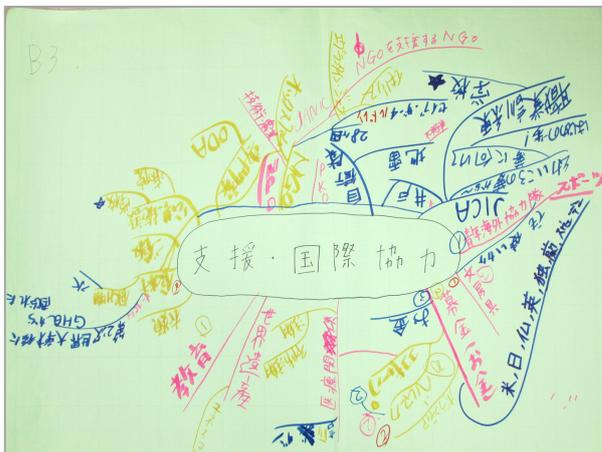
- ・世界には様々な問題や国際協力が多くあることを知る。
- ・自分と同じ「人」が国際協力を行っていることを実感する。
- ・自分がどの国際協力に興味があるかを把握し、より詳しく調べる。

2 子どもの活動の成果・反応

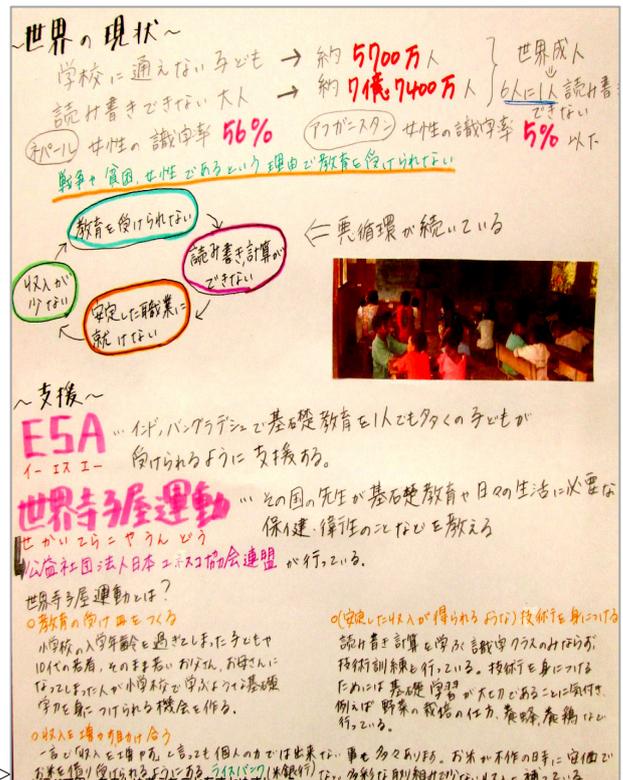
- ◇『「協力する」(つ)ていいこと』や「感動しました」とあるように、国際協力をする人を身近に感じ、そして、地道に支援し続ける人の存在に感銘を受けた生徒が多かった。
- ◇「私も少しずつでも」とあるように、国際問題や国際協力は他人事ではなく、自分も参加できるものという思いをもち始めた。
- ◇「世の中」とあるように、世界は広く、スポーツや障害者支援など、幅広い分野の支援があるということに気付いた。
- ◇「支援された人が幸せになって」や「多くの人を助けるために」、「本当かっこいいな」からは、人のことを想ったり、困っている人を助けたりする仕事の素晴らしさを実感した姿が見て取れる。

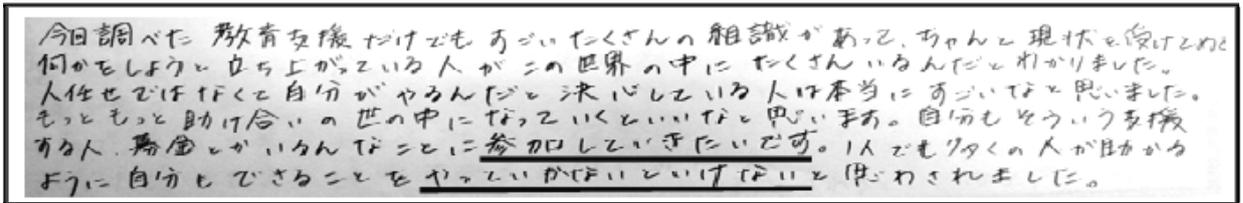


〈ある生徒のふりかえり(第8~10時)〉



〈②の活動におけるブレインストーミングと生徒のまとめの作品〉





＜ある生徒のふりかえり(②の活動)＞

- ◇「参加していきたいです」とあるように、国際協力に興味を持つだけでなく、参加していきたいという思いが高まった。
- ◇「やっていかないといけない」とあるように、「一人ひとりが国際問題に興味をもたなくてはならない、国際協力に参加しなくてはいけない」という思いをもつことができた。

3 使用した教材

＜教材4＞NHK for school

- UNESCO(ユネスコ)2分
- UNICEF(ユニセフ)2分
- NGO(エヌジーオー)5分
- 自衛隊3分
- ODA(オーディーエー)5分
- 核兵器廃絶2分
- 国際機関で働く人2分
- チョコレート3分

＜教材5＞教師海外研修で出会った方のビデオメッセージ

- 青年海外協力隊 本間さん5分
- 青年海外協力隊 福嶋さん5分
- UXO ラオス 林さん5分
- アジアの障害者を支援する会 斉藤さん5分

※教師海外研修で出会った青年海外協力隊には、取材の際に、「なぜ、国際協力をしようと思ったのか」や「将来の夢」など、支援者としての思いや生き方をビデオカメラの前で話していただいた。

＜教材6＞NHK番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」

※国連WFPで働く方を紹介した。この番組では、世界の貧困地域の食糧支援の現場を詳しく伝えており、命をかけて必死に活動する姿が描かれている。

11-12 時限目「自分には何が出来るか考える」

1 子どもの活動の流れ

①『自分たちに出来ることを考える』

個人で「自分たちに出来ること」を考える。その後、グループに分かれて共有し、特に出来そうなこと5つを選び、全体で発表する。

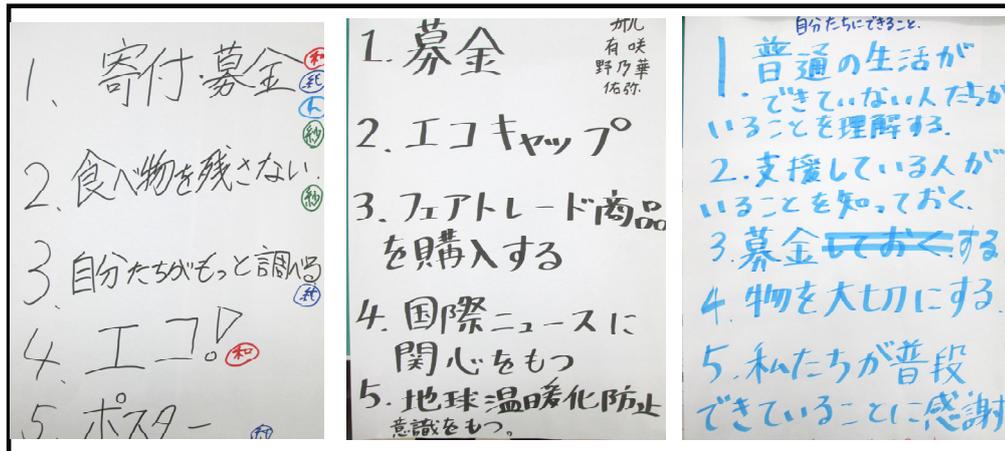
②『単元のまとめをする』

単元のまとめとして、アンケートに答える。まとめの紙に自分の考えを書く。

この時限のねらい

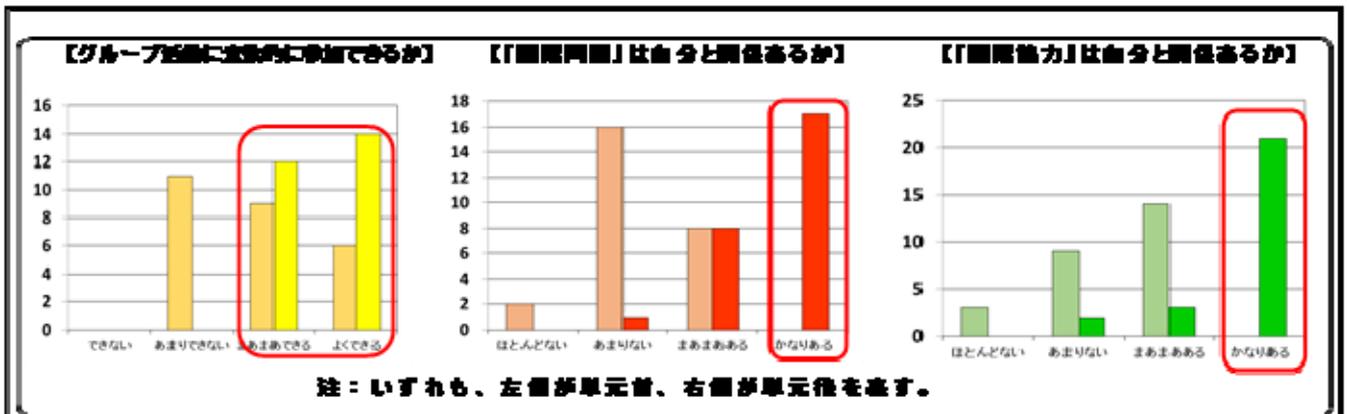
- ・小さなことかもしれないが、自分にも出来ることがあるということを実感する。
- ・小さなことを実行することが大切であることに気付く。
- ・自分も国際協力をしてみたいという思いをもつことができる。

2 子どもの活動の成果・反応



<自分たちにできること>

- ◇ 「普通の生活ができていない人たちがいることを理解する」や「支援している人がいることを知っておく」、「自分たちがもっと調べる」、「国際ニュースに関心をもつ」からわかるように、世界の現状をもっとよく知らないといけないという思いが高まった。
- ◇ 「フェアトレード商品を購入する、エコキャップ、寄付、募金」などからは、国際協力に少しでも参加しようという意欲を感じることができる。



この単元を通して、地道に少しずつ協力している人がこの世界にたくさんいることを学びました。ちょっとでも協力しよう!! 助けよう!! としている人がいます。そういう人に私もなりたくなと改めて感じました。WPの人たちがいるということは、私たちの問題でもあります。その国だけの責任と思わずに、世界の問題として、自分も支援する側になりたいです。



今までは、世界のことはよく分からなくて、自分には全く関係ないと思っていました。深く考えたこともありませんでした。でも、グループで意見を出し合ったりするうちに、興味が増えました。日本は一部の人が支援していないから、「私も何かしたい!」と思いました。



自分ももっといいことをしたと思いました。せっかくヨーロッパに住んでいたのに、そのときにあまり学ぶことができなかったからです。悔しいです。これから、もっと学び、支援をしている方のように、心の広い人間になりたいと思いました。



<単元前後のアンケート結果と生徒のまとめ>

- ◇ アンケートからは、生徒の多くがグループ活動に意欲的に参加できるようになったという実感があることがわかる。また、国際問題や国際協力については、これまで「あまり関係ない」、「まあまあ関係ある」と思っていた生徒が多かったが、「かなり関係ある」と考える生徒が大幅に増えたことがわかる。
- ◇ 生徒の単元のまとめからは、グループ活動に積極的に参加できるようになった姿、国際問題を自分事としてとらえている姿、支援するという行動や支援している人たちの素晴らしさに気付いた姿がうかがえる。また、それだけでなく、「自分も何かしたい」、「自分も変わりたい」という強い思いが見て取れる。

3 使用した教材

なし